

各関係機関長様

熊本県病虫害防除所長

水稻海外飛来性害虫の主飛来(技術情報第8号)について(送付)

このことについて、トビイロウンカの飛来状況を下記のとおりまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

トビイロウンカは6月下旬以降断続的に飛来しており、梅雨時期の飛来量は過去10年で2番目に多い。

8月の防除に重点を置く主飛来は7月3日頃であるが、その前にも大きな飛来波が確認されているため、ほ場での発生状況を観察し、適期防除に努める。

1 飛来状況

- (1) 合志市に設置した予察灯では、6月22日の初飛来から現在にかけて断続的に誘殺されている。期間内の日毎の誘殺数は、7月3日(102頭)が最多で、次いで6月24日(12頭)であった(表1)。
- (2) 6月第5半旬～7月第4半旬の誘殺数は、127頭(平年105頭)と平年比やや多であった(表2)。

2 防除対策

- (1) トビイロウンカに対しては若齢幼虫期(1～2齢)の防除が最も効果が高いため、本田内の発育ステージを観察して防除を行う。早植え水稻では、6月24日頃と7月3日頃に飛来したトビイロウンカの定着が懸念されるため、可能な限り2つの飛来の幼虫期が重なる時期に防除を行う(表3、表4)。普通期水稻では、6月24日頃は移植前もしくは箱施用剤の効果が高い移植直後であり、定着の可能性は低いと考えられるため、7月3日頃の主飛来の幼虫期に合わせて防除を行う(表3、表5)。
- (2) 今後の気象状況によって、防除適期は随時変動する。防除に当たっては、最新の情報を防除所のホームページで確認する。
- (3) 本田内の発生密度を観察する際は、他のウンカ類(セジロウンカやヒメトビウンカ)も発生している時期であることから、各害虫種の見分け方を理解したうえで、払落し法(株元を叩き、水面もしくは株に沿わせた板上に落ちた虫を計数する)によって観察する。
- (4) トビイロウンカの飛来量は地域やほ場、増殖量は品種や箱施用剤の種類によって異なる。発生時期毎の要防除水準(成虫と幼虫を合わせた頭数)は、7月中旬～8月上旬では20頭/100株、8月中旬～8月下旬では100頭/100株または収穫30日前では300頭/100株である。本田内の発生密度を定期的に観察し、要防除水準を超えた場合は(1)によらず至急防除を行う。

(5) 薬剤感受性が低下している薬剤の使用を避ける（令和6年（2024年）3月22日付け技術情報第13号参照、

<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/243280.pdf>）。

(6) トビイロウンカは水稻の株元近くに生息しているため、液剤や粉剤で防除する場合は薬剤が株元に到達するように十分量を丁寧に散布する。

※今後の発生状況、防除適期や対策については、熊本県病害虫防除所のホームページ（<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>）に掲載します。

表1 予察灯におけるトビイロウンカの誘殺状況（合志市）

月/日	6/1	6/2	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/8	6/9	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/15	6/16	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/22	6/23	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/29	6/30	
誘殺数 (頭)	0																					2	1	12	2	0	0	1	0	0	
月/日	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	7/9	7/10	7/11	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18	7/19	7/20	7/21	7/22	7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31
誘殺数 (頭)	0	2	102	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	-	-	-	-	-	-	-	

表2 予察灯におけるトビイロウンカの半旬別誘殺数（合志市）

月	6						7					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
H26	0	0	0	0	0	1	10	0	14	2	1	0
H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
H28	0	0	0	0	0	1	0	0	34	4	3	0
H29	0	0	0	0	1	0	0	4	7	0	0	0
H30	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	1
R1	0	0	1	0	0	1	27	2	49	12	4	2
R2	0	7	0	0	0	2	226	402	119	2	7	17
R3	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
R4	0	0	0	0	0	8	0	7	2	73	2	5
R5	0	0	0	0	0	0	32	1	3	0	1	0
平年値 (H26~R5)	0	1	0	0	1	1	30	42	23	9	2	3
R6	0	0	0	0	17	1	106	0	0	3	-	-

表3 予想されるトビイロウンカの防除適期※

(1) 6月24日飛来

地点名	第2世代幼虫
熊本	8月9～19日
三角	8月10～21日
岱明	8月9～20日
鹿北	8月14～26日
菊池	8月10～21日
阿蘇乙姫	8月20～9月3日
甲佐	8月10～21日
八代	8月9～20日
水俣	8月10～21日
人吉	8月12～23日
本渡	8月10～21日

(2) 主飛来 (7月3日飛来)

地点名	第2世代幼虫
熊本	8月16～27日
三角	8月18～29日
岱明	8月16～27日
鹿北	8月20～9月1日
菊池	8月18～29日
阿蘇乙姫	8月28～9月12日
甲佐	8月19～30日
八代	8月18～29日
水俣	8月19～30日
人吉	8月19～31日
本渡	8月18～29日

※各地点のアメダスデータ平均気温(本年値及び平年値)をもとに、下記の条件による有効積算により発育ステージを予測した。7月22日までは2024年実測の平均気温、7月23日以降は平年の平均気温をもって有効積算温度にて試算した。

ステージ	有効積算温度(日度)	発育0点(°C)	備考
成虫	125	12	産卵までの期間
卵	135	11.4	孵化までの期間
幼虫	250	6.5	1齢～5齢幼虫の期間

表4 早植え水稲における防除のイメージ(地点:人吉市の場合)

防除対象	飛来日	～8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31		
第2世代幼虫	6月24日	防除適期																						
	7月3日									防除適期														

2つの飛来を同時に防除可能

表5 普通期水稲における防除のイメージ(地点:人吉市の場合)

防除対象	飛来日	～8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	
第2世代幼虫	6月24日	※普通期水稲(箱施用あり)では定着の可能性は低い。																					
	7月3日									防除適期													

熊本県病害虫防除所  
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)  
 担当: 守田 TEL 096-248-6490